

## 滋賀県がん診療連携協議会・第2回緩和ケア推進部会

日時：平成23年11月21日(月)17:00～

場所：成人病センター新館11階会議室

【部会長】成人病センター 堀科長

【副部会長】彦根市立病院 黒丸囑託部長

【部会員】滋賀医大病院 福竹看護師長、

大津赤十字病院 佐川看護師、成人病センター看護部 辻森主査、

彦根市立病院 秋宗科長補佐、市立長浜病院 花木部長、

岩本整形外科 岩本院長、社団法人滋賀県薬剤師会 古武、

社団法人滋賀県看護協会 長嶋、滋賀県がん患者団体連絡協議会 岡崎運営委員、

【事務局】成人病センター地域医療サービス室 田中、藤田、経営企画室 谷本（欠席）

【欠席部会員】公立甲賀病院 沖野副院長、柴田看護師長補佐、滋賀医大 遠藤教授、

大津赤十字病院 三宅部長、市立長浜病院 宮崎看護師、大津市民病院 津田部長、

山澤看護科長、ヴォーリス記念病院 細井部長、岡田師長、

社団法人滋賀県医師会 橋本理事、滋賀県がん患者団体連絡協議会 野崎運営委員、

滋賀県健康推進課 加賀爪副主幹

### 議題

#### 1 部会長あいさつ

（堀部会長）

緩和ケア推進部会も来年で4年目になり、緩和ケア研修も少しずつ進み、色々な取り組みをしてきたわけですが、十分浸透していないという現状もあります。特に開業の先生方が研修を受けるのがだんだん頭打ちになっている、多少在宅も進みつつあるのですが爆発的に増えているわけでもなく、これからはがんばって緩和ケアを推進していかなければいけないという状況は変わっていないと思います。地道な活動をしながら、更なる発展を目指すためにはどうしたらいいかということも、視野に入れて考えていきたいと思っていますところです。

#### 2 平成23年度看護師対象緩和ケア研修会の実施結果について

（成人病センター）

- ・今年で2度目の看護師対象緩和ケア研修について、9月5日月曜日から8日木曜日まで、講義1日、見学実習3日という形で行いました。全員で5名の参加がありました。前回1回目は研修という形で参加された方が全員だったのですが、今回は、研修という形で参加された方が3名、自分の休みを使って来られた方が2名になっていました。担当者側の評価としては、事例検討のところで進め方がもう少し不十分だったかなという意見が出ていましたので、事例検討の目的について検討を行うかということと、司会をしていただく方の選定をこちらでしたほうがいいのかということと、講義に関しても、内容が多すぎるかなという話をしていたのですが、どれも必要なものではありますし、次年度行うにあたっては、内容的にはこのままで時間の調整だけをしていきたいなと思っていました。
- ・研修生からのアンケートに関しては、かなり良い意見が書かれています。講義に関しては「最初は長いと思っていたのですが、内容は詰まっていたり実際に聞いてみるとすごくよかった」「一般的なことを

一日集中して聞いてよかった」というプラスの意見をもらっています。事例検討に関しては必要なことであることは、認識されているようですが、どういうふうに進めていいかということは少しわかりづらかったという意見が出ていました。みんなで話し合うことも大事だということを学んだということなので、今後もしていきたいということが言われています。実習に関しては、施設を見るというのはすごく刺激的だったようで、実習があつてよかったという意見をほとんどの方からいただいています。

- 全体的な意見としては研修に参加してよかったという意見がほとんどで、次もあるなら他の方も参加してほしいという意見がありました。意見の中にはもっと他のスタッフにも研修を受けてほしいと思ったし、これをぜひ広めてほしい、実習病院が増えることを望んでいるという意見もありました。
- 今後の課題として、実習生のアンケートからも病院での見学実習が必要かと思っています。前回もお話ししましたが、実習施設が彦根市立病院と成人病センターと2施設ということです。他の残りの緩和ケア病棟に実習施設としてお願いできれば、参加者が倍になっているので、いいのではないかなということがあがっています。今後研修に来ていただいた方のフォローアップも考えていかないといけないかなと思いました。現在医師の研修は、緩和医療学会で指導養成されている PEACE のプログラムを使用して行われていますが、看護師も緩和医療学会で指導者養成をされている ELNEC-J というのがあります。今後、県内の看護師を対象として緩和ケアの基本を学べる一つの機会として、緩和ケア推進部会が中心となって進めていくことが必要ではないかと思います。そのためには PEACE と同じように指導者の養成を拠点病院を中心に各病院に部会として働きかけてほしいなと思っています。
- ELNEC-J の資料に関しては、裏面に ELNEC-J のカリキュラムがどういうものかというのをあげています。現在、418 名、全国で指導者の養成プログラムを修了された方がおられます。滋賀県では指導者は現在 5 名となっていますし、少ないほうではないかと思っています。こういうものがあるので、医師の PEACE と同じように、計画的に県内の緩和ケアのレベルをあげていくために取り入れていけないかなと思いましたので、最後にあげさせていただきました。以上です。

(堀部会長)

- ありがとうございます。ELNEC-J というのは 2 日間のプログラムですよ。PEACE と一緒ですよ。

(成人病センター)

- 2 日間というプログラムもありますし、月 1 回を 10 回という、このモジュールをとりあえずこなせばいいので、やり方はいろいろ変えられます。

(事務局)

- 前回の部会でご紹介だけさせていただいたのですが、結構人気のある研修で募集を始めてもすぐに締切になることが多いので、早めに情報提供をして。

(堀部会長)

- 指導者研修ではなくて、実際にやるプログラムがいろんなやり方があるということですね。

(成人病センター)

- PEACE と同じように指導者のコースに行かれた方しか講義を行えないということがあります。

(堀部会長)

- ・もしやるとなると、来年度やるならここで決めないといけない。

(成人病センター)

- ・実際問題、来年度やるのは少し難しいかなと思っています。ただ、来年度は看護協会のプログラムに入るだろうと聞いています。緩和ケアの師長が教育のほうの緩和ケアの会議に関わっていて、ELNEC-Jのほうも協会でやっていただけないかとお願いされて、来年度は緩和ケア協会で行っていただけるのですが、続いていけるかどうかもありますし、もう少し指導者の方も増えていただくと、今5名なのでいろんなところで開催できるかなと思います。

(堀部会長)

- ・指導者研修は年間どれくらいあるのですか。

(成人病センター)

- ・年間、今は2回です。来年度はもう少し増えるかもと言われていましたが、今年は、大阪と東京と2回です。

(堀部会長)

- ・費用はどうしていますか。

(成人病センター)

- ・研修費で出しています。

(堀部会長)

- ・各病院持ちで行っているということですね。拠点病院であれば負担してもらうことは可能ですかね。彦根市立病院はどうですか。

(彦根市立病院)

- ・私がまだ行っていないので、どうなるかわからない。どこから研修費が出るのか出ないのか。

(堀部会長)

- ・緩和ケア部会で取り組むということにしておけば、拠点病院のお金も使えると思うのですが。他にお願いしますか。

(滋賀医大附属病院)

- ・喜多下という者が行っております。

(堀部会長)

もう少し増やさないといけないですね。

(滋賀医大附属病院)

- ・そうですね。確かに先程言われたように、一人でも数が増えれば、結構興味を持ってくれるナースが多いので、参加していただけたらと思います。

(堀部会長)

- ・病院で指導者研修に派遣していただけるような働きかけを緩和ケア部会でしていきましょうか。各施設の看護部長の方々に、緩和ケア研修部会としてELNECの指導者を育成するという取組に協力をお願いしたいというようなことを、出したら少しはプレッシャーになりますね。

(堀部会長)

- ・長嶋さん、来年は看護協会としてELNECをやることは決まっているのでしょうか。

(県看護協会)

- ・今教育の編成をやり直そうということに取り組まれていて、細かなところまではまだわかっていない。

(堀部会長)

- ・指導者に対する謝礼はなしですか。

(成人病センター)

- ・指導者が何人もいれば拠点病院だけでできますが、手伝いにきてもらうことに関しては医師の PEAC と同じように、諸経費がかかります。

(堀部会長)

- ・緩和ケアの医師研修の時に他施設から来てもらう時には、外部講師には、お金払っていますよね。

(事務局)

- ・はい。謝金は払っています。

(堀部会長)

- ・となると看護協会もある程度予算も組まないといけないということですね。少なくとも会場費はありますよね。

看護師の緩和研修は来年度も続けるということですね。参加施設を増やして、来年も計画を立てていただきたい。

(成人病センター)

- ・続けていけたらと思っています。拠点病院であればしていただけるのですが、実習施設を拠点病院以外の施設をどのように続けていったらいいのか。

(堀部会長)

- ・ELNEC を受けたい人には実習だけという対応もできるわけですか。やはりセットですか。

(成人病センター)

- ・ELNEC で一応網羅できるので、大丈夫ですが、実習施設が 2 か所というのは非常に問題があって、ELNEC にしろ看護師対象緩和ケア研修会にしろ、この方々以外の実習をしているので、どこの隙間にいれていくかが非常に難しいところです。本来であれば、県内 4 施設あるので、受け入れていただきたいのですが、色々な実習費用や責任問題のことが関係してくるので、拠点病院以外では受けないという方向で最終決定したので、今年も 2 施設で分担したということです。どうしても受け入れも 6 名くらいしか、3：3 くらいに分けないと、10 名来られると大変で、人数制限せざるをえないという状況です。

(堀部会長)

- ・ヴォーリズ記念病院と大津市民病院は難しいですかね。どこをクリアしたら受けてくれるのですか。拠点病院のようにお金が出ていないのがひとつですね。大津市民病院は支援病院になったので、とりやすくはなっているかもしれない。緩和ケア研修とかがん拠点の仕事を助けなければいけないというのがあるので。

(事務局)

- ・協力規定がありますが、財源的な裏付けは何もないですからね。

(堀部会長)

- ・ELNEC については来年度は看護協会と協力してやっていただくということでやりましょうか。昨日の日本ホスピス緩和ケア協会の近畿ブロック会では話題になったのですが、来年は近畿ブロック会で ELNEC の講義をやってもいいかなという話が出ています。そういった機会を使って皆さん頼っていただいたらいいし。そういった情報を流すというのがこの部会の役割だと思いますので。ということでこの件はよろしいですか。

長嶋さん、ぜひ帰られたらよろしくお願いします。

では、次に彦根の開催実施報告をお願いします。

#### (彦根市立病院)

- 彦根は5月10・11日、連続した土日に開催させていただきました。それぞれA日程B日程とどちらかだけという方もいらっしゃるのですが、両方が18名ずつと同じ数でしたので、支障なく実施しています。ファシリテーターは院内で全部そろえて、前回の緩和ケア研修会を修了した医師がファシリテーターにというのが、恒例の行事になってきたので、皆さん自覚していただいて、ファシリテーターをお願いしています。全修了者は16名になっています。院内医師4名、他院からのドクターと開業者も1名おられます。看護師も6名すべて院外のナースでしたし、薬剤師も1名、支援病院の薬剤師が1名来られています。
- ワークショップも含めて、比較的好かったという評価はいただいています。続きの土日が良い方もいらっしゃるれば、空けてほしいという方もいる。どちらがいいかは結論的にはまだ出していない。先生としては続きで終わらせてしまいたいという思いがあるので、来年度はどうするか考えていきたいと思えます。
- だんだん受講する人は少なくなってきて、特に院内の医師はほとんど若手の医師だけが残っている感じで、あとは受講してもらっているのですが、今年よりも更に人数が少なくなるかと思いますが、今年は土曜日が入ったので開業医が少なかったというのがあるので、開業者も来ていただけるように1日の枠で考えたいと思っています。開業医も長浜に行かれたり守山に行かれたり、なかなか難しいかと思うので、地元の開業医さんは地元で受けていただくことはコールしたいと思っています。

#### (堀部会長)

- 彦根の総ドクター数から言うと、受講修了者数はどれくらいですかね。50%超えましたか。

#### (彦根市立病院)

- がん関連のドクターですよね。70%から80%くらいだと思います。

#### (堀部会長)

- 滋賀医科大学附属病院はどうですか。

#### (滋賀医科大学附属病院)

- 10月22・23日の土日に開催させていただきました。両日とも来られた方もいらっしゃいますし、日曜日だけ開業医の方が来てくださいました。医師1名、コメディカル3名(薬剤師2名、看護師1名)という状況です。医師ですが、滋賀医科大学附属病院から滋賀病院に行かれた先生方が何人か来てくださりまして、外部というか内部というかそのような状況でやっておりました。大津エリアと湖南地域、エリアが分かれた状態でグループ分けをしたりしているので、共通の話が話題に上がってきたので、グループ分けした時に意見が活発になったり、開業医の先生となかなかお話しをする機会が滋賀医科大学附属病院の場合はないので、中身は濃かったように思います。
- アンケートの結果も良くないというのはあまりなく、まあまあいいようなアンケート結果になっています。今回資料が、使ったスライドと先生が使われた資料のお薬の名前が違っていたりして、わかりにくいという意見が出ていましたが、おおよそはよく理解できたということでした。
- 10月開催ですが、10月は学会が多いので、参加人数が益々減る状況なので、できれば10月を避けていただけると、もう少し参加が増やせるかという意見が出ていて、ぜひ伝えてほしいということでした。

#### (堀部会長)

- 後で研修日程を調整するので、そこで考えたいと思えます。

プログラムの見直しですが、10月18日に私と三宅先生、花木先生、岩本先生で見直しをいたしました。来年度の研修プログラムを見直すかどうかということですが、最新版のモジュールと2010年版を比べたのですが、追加されているスライドがありますが、殆どがマイナーチェンジなんですね。特に身体症状の緩和については大きな変更はないということで、追加されたスライド等については、各病院で取捨選択してもらえればいいのではないかということになりまして、基本的にプログラムは変更せずに行くということにしたので、A研修B研修については、年度をまたいでも従来と同じように1年以内に受けていただければ、OKとしたいと思います。

- 追加モジュールについてはフォローアップ研修で別個にやりたいということなので、基本的な研修プログラムにははめ込まないという方針にしました。こうすることで、年度をまたいで研修ができることになるので、受講者にとっても便利でないかと思います。

来年度厚生労働省に報告するプログラムについては、今年と全く同じものを申請することになります。

- フォローアップ研修ですが、1回緩和ケア研修を受けた方々に進んだプログラムを勉強していただく機会を設けたいということで、まず来年度は年に1回、市立長浜病院さんをお願いして、11月に米原文化産業会館で開くことが決まっています。日程が決まりましたら、県下の先生方に広報すると。1回緩和研修プログラムを修了した先生方に呼びかけてやりたいと思っております。
- 緩和ケア外来ですが、特にがん診療支援病院から支援病院も緩和ケア外来を開かなければならないということで、どこの支援病院も緩和ケア外来を取り組むようになったのですが、どうやって開いたらいいかわかならぬので研修してほしいという要望があったので、来年度開くことになっています。来年度4月22日に当センターの研究所講堂で半日かけてやろうと計画しています。「緩和ケア外来の現状と展望」ということで、今緩和ケア外来を運営している各病院から現状について報告してもらって、緩和ケア外来は各病院でものすごく違う。例えば、滋賀医科大学附属病院では心とからだを別々にやっていたり、私のところみたいに週2日に分けてずらっとやったり毎日毎日緩和ケア外来を不定期にやったり色々な施設があります。対象とするものは痛みだけをみていたりとか、緩和ケア入院の対応をしたり色々な内容があるので、各病院の実情を話してもらって、こういうものだということを支援病院の先生方にわかっていただくような緩和ケア外来に関するパネルディスカッション、シンポジウムまでいかないと思いますが、したいと考えています。

パネラーについては、緩和ケア外来を長いことやってきているヴォーリズ記念病院、大津市民病院の先生方にさせていただく予定にしています。最近始めた施設もうちも始めたけれどこんな形になってますみたいなのもいいかと思っております。

- 緩和ケア研修会の開催ですが、各病院の事情に応じて2回やっていただいてもいいし、1回でもよしという形をお願いしたいと思います。拠点病院の要件としては、年に1回は必ずしなければいけないので1回はさせていただきますが、2回目に関しては各病院の実情に沿うようにしていただければと思います。緩和ケアチームと化学療法チームが連携をしていかないといけないのではということもありますので、呼びかけていきたいと思っております。緩和ケア研修の日程を今はABの二つですが、午前午後に分けてABCDにしたらどうかという意見もあったのですが、非常に煩雑になりますので、今まで通りABでいくということにしております。以上が見直し検討会の結果です。

### 3 平成24年度滋賀県緩和ケア研修会の実施について

(堀部会長)

- それでは次の話題で研修会の日程について、私が考えていたのは、今2回やっているところは成人病

センターと市立長浜病院と大津赤十字病院と3か所です。大津はどうでしょうか。来年度も2回の予定でしょうか。

(大津赤十字病院)

- ・市立長浜病院さんが1回にされるということですので、うちも1回にすると数が減ってしまうので2回しようかという話をしています。後で研修日程を調整するので、そこで考えたいと思います。

(堀部会長)

- ・市立長浜病院は1回にするのでしたか。

(市立長浜病院)

- ・1回にしてフォローアップ研修をします。

(堀部会長)

- ・それでは大津赤十字は2回やっていただけるということでよろしいですか。そうすると、市立長浜病院が11月に1回やるということが決まった。ということは去年の流れからいうと、11月はどこもやられていないので11月にしたのですが。滋賀医科大学附属病院は10月は困るということなので、困ったなど。

(滋賀医科大学附属病院)

- ・10月に学会があって、みんなが行くので参加人数が絞られてくる。

(堀部会長)

- ・他はどうですか。大津赤十字病院は去年と同じ月でいいですか。7月と2月でお願いしたいと思います。成人病センターも5月と12月で考えていたのですが、よろしいですか。滋賀医科大学附属病院をどこにずらすかですね。ご希望の月はありますか。

(滋賀医科大学附属病院)

- ・10月以外であれば9月でも11月でもどこでもいいですということですが、空いていれば、10月以外ならどこでもいいです。11月が空いているという話が出ていた。

(堀部会長)

- ・市立長浜病院は1月でしたよね。今年はないので1月はいかがでしょう。

(市立長浜病院)

- ・年明けにはなりますよ。確か伏木先生がされる緩和ケア研修、医師研修が、1月にあります。市立長浜病院としてやるのが1月にあるので。今年は6月にやっています。24年の1月に入っているはず。15日22日のはずです。

(事務局)

- ・25年です。

(市立長浜病院)

- ・25年ですとどちらかを削ることになると思います。

(堀部会長)

- ・そしたら市立長浜病院さんは中止で、25年の1月は滋賀医科大学附属病院さんということで。

(滋賀医科大学附属病院)

- ・わかりました。

(堀部会長)

- ・市立長浜病院は6月でよろしいですか。

(市立長浜病院)

- ・できるんじゃないですか。

(堀部会長)

- ・滋賀医科大学附属病院さんが10月はやめて、その代り11月に県全体のフォローアップ研修をということによろしいですか。それでいけますね。公立甲賀病院の先生も来ていないので聞けないですが、同じ日程でお願いできますか。

(事務局)

- ・月が固まりましたので、具体的な日には追って照会させていただきます。8月も空いていますが。

(堀部会長)

- ・8月は暑いですしお休みの方が多いと思うので、やめようということになっています。次ですが、看護師対象も今終わりましたし、フォローアップ研修も今お話しした通りです。緩和ケア外来についても先程お話しした通りです。

(事務局)

- ・緩和ケア研修会の修了者数について、橋本先生からデータを送っていただきました。17日に医師会の会長さんの会議があったようで、医師会ごとの修了者数のリストが資料として出されたようです。開業医さんの受講が少ないのでよろしくということは伝えましたということで、皆さん方にもよろしくお伝え下さいということでしたので本日こういった資料を見ていただきました。

(堀部会長)

- ・がんを診ている先生方に重点的に緩和ケア研修をお願いするのはいいかもしれないですね。うちの病院でも開催するので、そういったところを掘り起こしたらいいのではと思います。各圏域で大津は開業医の先生の参加は結構多いんですよ。

(大津赤十字病院)

- ・大津医師会と高島医師会に各診療所に毎回案内出しているのですが、がんの多いところには直接電話して来ていただくようにしているのですが、なかなか申し込みが少ないです。

(堀部会長)

- ・できるだけ開業医の先生に参加してもらわないと、在宅ホスピスも進まないんで、がんばってやっていかないといけないと思います。がんパスが動きだしたので、掘り起しができればという気がします。緩和ケアの地域連携パスに関しても、地域連携部会とタイアップしてやっていこうという話になっています。

#### 4 緩和ケア推進に係る意見交換について

(堀部会長)

- ・ずっと懸案になっている緩和ケアパスについても県下で統一したものを導入していければと考えています。これについては地域連携部会も進行がんに関するパスを作りつつあるので、タイアップするような形で緩和ケアの地域連携パスもこの部会として統一したものを導入していければいいと考えています。これについては地域連携部会と協議しながら、進めていきたいと思っております。
- ・今年は緩和ケア推進部会で県民対象の緩和ケアの講演会ができなかったもので、緩和ケアのうちの病院、ホスピス緩和ケア週間パネル展示というのをしました。それについては、京都新聞に取り上げていただいたのですが、できれば各病院も特に緩和ケア病棟がある病院とは限りませんが、一つの案ですが、緩和ケアに関するパネル展示とか広報活動をやっていただければと思います。彦根市立病院は講演会はされましたか。

(彦根市立病院)

- ・10月1日にしました。講演会の後、緩和ケア病棟の見学ツアーを組んで見ていただいています。

(大津赤十字病院)

- ・うちも1か月間、パネル展示と冊子配りをしました。

(堀部会長)

- ・緩和ケアの紹介ビデオ(DVD)があるんですよ。またホスピス緩和ケア協会が作っているの、外来で流していただくのもいいかと思います。

予定していた議題はこれだけです。他にありませんか。

(市立長浜病院)

- ・確認ですが、緩和ケア外来の研修会あるじゃないですか。たぶん話してもらおうと何人か候補はいると思うのですが、1月くらいでいいので、事前に案内を出してもらったらいんじゃないですかね。

(堀部会長)

- ・年明けにでも、チラシも作らないといけませんね。

(大津赤十字病院)

- ・この場におられません、滋賀医科大学附属病院の森田先生にお願いするなどどうでしょう。

(堀部会長)

森田先生と、身体の緩和のほうは。

(滋賀医科大学付属病院)

- ・身体のほうは、麻酔科の岩本先生。ペインクリニックの中でやっている。

(堀部会長)

- ・またお二人にお願いしますので。彦根は黒丸先生がこの日が空いているかどうか分からない。あと三宅先生にもお願いするかと思います。

(堀部会長)

- ・薬剤師会では何か計画されていますか。

(滋賀県薬剤師会)

- ・薬剤師会では第2回目の第2期在宅ホスピス、認定薬剤師の研修会を行います。今年度で30名受講しています。今年度から研修を受けただけではなくて、発表してから認定をしようということになったので、まだ今年度研修を受けられた方はまだ認定薬剤師ではないのですが、発表していただいてから認定薬剤師として認定されます。第1期が40名いましたので、70名位います。
- ・薬局情報技師というのをまとめております。各調剤薬局の開局日や時間、内外の連絡先、在宅患者訪問薬剤管理士の届け出をしているかどうか、訪問指導に応需しているかどうか、退院時カンファレンスに参加ができるかどうか、注射薬の調整をしているかどうか、受益や経管栄養剤の対応ができるかどうか、受益ルートやカテーテルの供給ができるかどうかを、各調剤薬局にアンケートをとりまして、その結果をまとめてホームページに掲載したいと思います。

(堀部会長)

- ・当然認定薬剤師のリストもホームページでわかるのですかね。

(滋賀県薬剤師会)

- ・届いた資料の中にはまだ入っていないのですが、データとしてあればという要望をしておきましょうか。

(堀部会長)

- ・滋賀県の薬剤師会は進んでいるんですね。がんばっていただきたいと思います。

(がん患者団体連絡協議会)

- ・私の家内は今年の3月15日に亡くなりました。この10年間頑張ってもらえたのも、先生がいろいろとやってくれた緩和のお蔭で、彼女も頑張ってもらえたのと違うかなと思っています。そういった意味で、こういう緩和研修をやっていただいているということ自身、本当によかったなど。もっと広まっていくことによって患者さんが気持ち的に楽になれるところもあるのではないかと思います。やはり、患者さんを勇気づけるということ自身、非常に患者を長生きされることにつながっているのではないかと思います。自分の家内のことで申し訳ないのですが、話をさせてもらいました。

一点、お聞きしたいのですが、平成20年から、22年度で372名、今年の8月で432名の修了者がいるという報告を受けました。今回こういうふうにやっていただいているのですが、5年が一つの目標ですね。5年までに何人まで伸ばそうとされているのか、今お医者さんがこれだけおられて、先程から診療所のお医者さんの受けが悪いということになりますと、今年終わると4年で、来年しかない。当初、滋賀県が立てた目標に対して、折角ここまでやっているのだから、目標を明確にして、できるようにしたいと思いました。

(堀部会長)

- ・いいご指摘ありがとうございます。県のほうに目標値を出してくれということを行っているのですが、なかなか明確な目標値が出しにくい。うちの病院でもがんに関わっているドクターをリストアップして、何%か受けている方、56%だったかな。やはり90%以上は必要だということで、今年来年がんばって、90%にあげようということで、募集しているところです。拠点病院はそんな感じである程度目標達成はいけるかと思うのですが、問題は支援病院、開業医の先生方です。病院に勤めている先生方は比較的受けやすいと思うのですね。開業されている先生方はそういう機会を作らないと緩和ケアを学ぶ機会もないので、開業している先生方も重点的に受けていただかなければいけないかなと思います。支援病院に関しても、すごく受講率が低い。支援病院も未受講の先生方、働きかけなければいけないかなと思います。そういうことを考えると、恐らく来年いっぱいやってもおっつかない。厚生労働省が今言っているのは、5年過ぎたら研修段階で緩和ケアを必修化しようと。そうすると研修受けている若い先生は、全員研修を受けることになるのでカバーできるだろうということです。お医者さんになってそういう教育を受ける機会がない人は、どうするのかということになって、やはり5年過ぎてもある程度つづけなければいけないのかなと私は個人的に思っています。厚生労働省がどうという指針を出すかはまだ分かりません。来年度で一応最後ですが、今後どうするつもりだろうと気をもんでいるところです。

(がん患者団体連絡協議会)

- ・せっかくやってもらっているのに、目標があつてその目標が達成できたかできないかは報告してください。

(堀部会長)

- ・各病院で、拠点病院に関しては、目標が90%以上というのは今は最低限です。
- ・決定したことの確認ですが、彦根市立病院は来年9月をお願いしたい。緩和ケア外来の研修会を開くということで、4月22日という日が決まっているのですが、先生ご都合どうですか。

(堀部会長)

- ・フォローアップ研修を来年度11月頃にやる予定です。11月3・4日は研修会をやらないといけないので、後半にしてほしいと要望しておきます。

(県薬剤師会)

- ・11月のフォローアップ研修は、薬剤師で受講したい人がいますがいかがですか。

(堀部会長)

- ・もちろん緩和ケア研修を受講した方なら問題ないです。

(県薬剤師会)

- ・細井医師のほうからひとつご報告があります。9月23日にヴォーリズ記念病院のターミナルケア講演会が終わりました。523名の参加がありまして、一般の方が65%、医療者が35%でした。

(堀部会長)

- ・来年度の日程は決まっていますか。

(県薬剤師会)

- ・まだ決まっています。

(堀部会長)

- ・ありがとうございました。以上ですが、よろしいでしょうか。  
確かに岡崎さんに言われたように、どこを目標にするかということでしたっきりした目標を立ててやっていかなければならないので、それについては県としっかり協議したいと思います。

(市立長浜病院)

- ・フォローアップ研修ですが、11月にうちの病院で担当することになりましたが、場所の再考と、文化産業交流会館では事務員に協力してもらおうとしたら、手間がかかるということで、院内で希望を聞いたところ、うちの講堂を希望したので、費用は昼ごはんくらいですが、それでよろしいでしょうか。具体的な日にちはいつ頃決めればいいでしょうか。

(堀部会長)

- ・11月3.4日と死の臨床の研修会をしなければならないので、できたら後半にお願いしたい。

(市立長浜病院)

- ・緩和ケア研修会の本研修会でも費用をとっていないので、費用をとることは弁当代以外は考えておりません。

(堀部会長)

- ・来年はフォローアップ研修を引き受けていただく関係で、2回目はなしということでもいいですか。平成25年の1月はないわけですか。なくなったところに滋賀医科大学附属病院が入っていただくことになりました。一般の研修は市立長浜病院は6月にお願いします。それでよろしいですか。去年の同じ日程で考えております。

(事務局)

- ・昨年度は遅かったのですが、できたら年内くらいに日程を固めて、早い時期に医師会報に年間の研修スケジュールに掲載していただきたいので、できれば年内を目途にお願いしたいと思います。追って照会させていただきます。

(堀部会長)

- ・基本的なプログラムは来年度も今年度と全く同じです。ただ、新しいモジュールを使っても大きな変化はないようです。基本的には変わらないので、今年度と来年度、年度をまたいでもよいということで継続したいと思います。

これで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。